

経済産業大臣として初入閣した。過去には経済産業副大臣を務め、選挙区である岐阜県は自動車関連の中小企業が多いなど、製造業との関わりも深い。足元の自動車産業の認識と次期エネルギー基本計画（エネ基）の方向性などを聞いた。

経済産業大臣に就任した 武藤 容治氏に聞く

―自動車産業の現状をどう
見ているか。また、政府とし
て電気自動車（EV）化をど
う進めていくべきか

生産強化や充電インフラの整
備を引き続き、実行してい
なければならぬ。ただ、日
本はEVだけでなく、合成燃
料や水素といった多様な選択

「自動車産業は（国内の）
雇用の1割、輸出の2割を占
めている日本の基幹産業だ。
グローバルの市場動向を見る
と、足元ではEV販売が鈍化
しているが、欧米や中国はE
Vを推進しており、今後EV
化は進んでいくだろう。EV
でも勝つために、電池の国内

肢を通じてカーボンニュート
ラル（温室効果ガス排出実質
ゼロ）を実現していくマルチ
パスウェイ戦略を掲げてい

〈プロフィール〉むとう・ようじ 1978年慶應義塾大学商学部卒業後、富士写真フイルム（現富士フイルム）入社。家業である建材商社勤務や通商産業大臣（現経産相）秘書を経て、2005年衆議院議員初当選。1955年10月生まれ、68歳。岐阜県出身。



不正や不公正な取
引慣行などの問題
が浮上している

「一連の不正事
案は、自動車ユー
ザーの信頼を損な
うとともに、自動
車産業の裾野を支
えるサプライヤー
にも甚大な影響を

不正や不公正な取
引慣行などの問題
が浮上している

最優先課題として（企業は）
しっかり取り組んでいくべき
だ。企業には厳正な対応をし
てもらいつつ、経産省として
もしっかりフォローしてい
く」

―物流業界では「2024
年問題」が深刻化している

「2024年問題では、物
流事業者だけでなく、荷主の
取り組みも極めて重要にな
る。経産省は製造業や小売業
などの荷主企業を所管してお
り、荷主側の意識や行動の変
革を積極的に促進しなければ

を課した。関係省庁と連携し
て取り組みを強化していく」
―次期エネ基の策定に向け
た議論が進む

「カーボンニュートラルを
目指す中でも、エネルギーの
安定調達は最も重要だ。石油
は災害時などを含め、エネル
ギー供給の「最後の砦」であ
り、供給網の維持は重要な課
題となる。エネ基策定の中
でも議論をしていかなければ
ならない。また、第6次（20
21年）のエネ基の策定時と
は状況が大きく変化した。中
東情勢の悪化などに加え、各
国ともカーボンニュートラル
の目標は掲げつつ、（実現に
向けた道筋で）多様かつ現実
的な考え方をするようになって
きた。このような背景を踏
まえ、計画を策定していく」
（村田 浩子）

内燃機関でもEVでも グローバルで 勝つために

る。内燃機関において勝ち続
けるといふところも大変、大
事な観点だと思ふ」
―近年の自動車産業は認証

及ぼしている。まさに自動車
産業の根幹を揺るがすこと
だ。まずは現場において、法
令順守や取引適正化を経営の

ならない。また、（物流関連
2法の）法改正で、発荷主、
着荷主の双方に対し、荷待ち
時間の短縮に向けた努力義務

（村田 浩子）